

Q18. 河川整備計画で位置づけられた整備はどのように進んでいくのでしょうか。

○ 河川整備計画の整備メニューについては、整備手順が内容によっては下流側に負荷を与えるため、上下流バランスを確保するために下流側から整備を進めていく必要があります、この基本的な考え方に沿って整備計画メニューの完了を目指すこととしています。

○ 具体的には、

【短期】（令和2年7月豪雨から10年）

- ・ 中流部 輪中堤、宅地かさ上げ完成
- ・ 人吉地区 河道掘削、河道拡幅（一部区間）完成
- ・ 引堤、遊水地完成

【中期】（概ね20年）

- ・ 下流部 河道掘削、堤防補強対策完成
- ・ 人吉地区 河道拡幅完成
- ・ 流水型ダム、市房ダム再開発完成

【中長期】（概ね30年・整備計画完了）

- ・ 下流部 高潮耐震対策完成
- ・ 上流部 河道掘削、堤防の整備完成
- ・ 川辺川 河道掘削完成

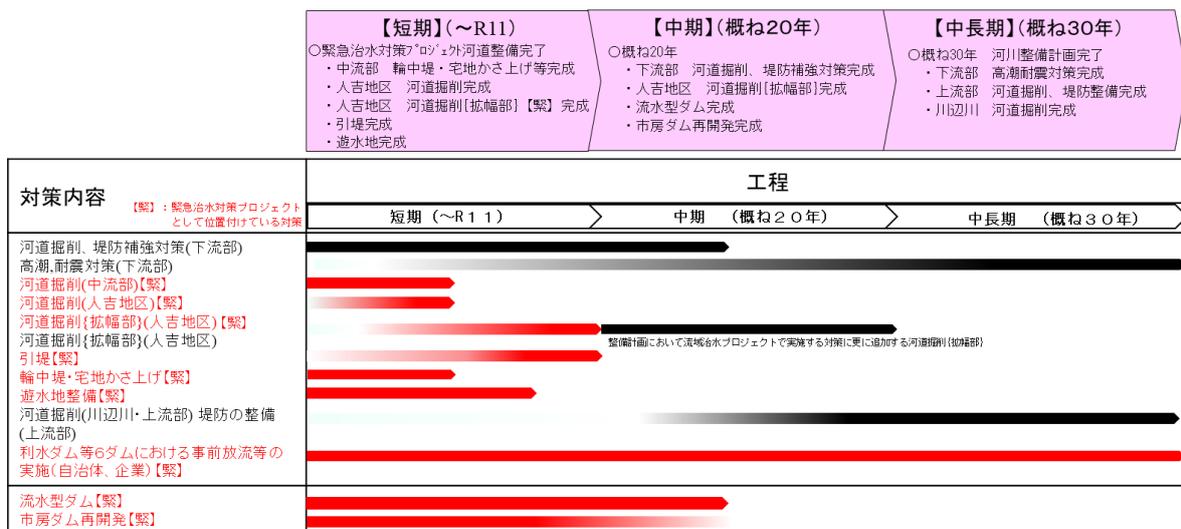


図 河川整備計画メニューのロードマップ

- 河川整備計画メニューのロードマップについて、ご確認したい方は[こちら](#)をご覧ください。

- なお、河川整備計画メニューのロードマップについては、「令和3年度 第4回球磨川水系学識者懇談会」において、（資料-1）【水害リスク情報の提示について（水害リスクマップの作成）】にてお示ししており、八代河川国道事務所のホームページ[「令和3年度 第4回球磨川水系学識者懇談会」](#)に掲載しています。